

令和3年度 学校評価総括表 伊丹市立 こやのさと幼稚園

教育目標		のびのびと力いっぱい活動する子どもの育成					
重点目標		1. 遊びを通した学びを支える保育を創造する。 2. 家庭や地域、小中学校、未就園児等と連携した保育を実践する。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	自ら学び自ら考える力を育む教育の推進	・遊びを通した学びを支える保育を創造する。 ・保育力の向上と改善をめざした研究をすすめる。	・遊びを通して学んだと捉えられる子供の姿を視点とした実践記録を行い、遊びを通した学びを支えるために有効な教師の手立てについての検証を行う。 ・保護者アンケートに「入園・進級当初よりも、遊びを通して学んでいる、成長した(している)と感じる」の項目でAとBを合わせた回答が8割を超える。 ・教職員アンケートで「園内研修で保育力向上につながる学びを得た」の項目でAとBを合わせた回答が8割を超える。	A	・保護者アンケートでAとBを合わせた回答が9割で、教職員アンケートで10割がAの回答であった。研究主題のサブテーマを、～共通の遊びにおける年齢に応じた学びの捉え～とし、エピソードを3学年が同じ遊びで記述することで、学びの発達道筋が見えた。それが教職員アンケートの結果に繋がったと捉える。その実感があるからこそ、保護者にも成長を感じてもらえるような伝え方ができていた。	・保護者も教職員も、子供の遊びを通して学びを実感した結果であると捉える。一方で1割の保護者が成長したと感じられていない面に着目し、家庭と連携を図ってきたい。	・3学年が共通の遊びを通して関わり合うことで学び、成長していける環境はとてよよいと思う。 ・致し方のない状況下で、先生方は尽力されたと思う。
	特別支援教育の推進・充実	・特別支援教育コーディネーターを中心として、一人一人のよさや違いを認め合い、共に育ち合う子供の育成に努める。 ・インクルーシブ教育保育対象児だけでなく、個別の支援や配慮を必要とする子供への理解を深め、全職員で話し合い、合理的配慮を考えながら保育を進める。	・個々の姿から個別指導計画を作成し、全職員で目標や支援方法を共通理解し保育を進める。 ・前期と後期の年2回個別指導計画のまとめを作成し、支援方法の振り返りや子どもの育ち、ねらいへの達成度について全職員で評価する。 ・気になる子供の姿を、その都度全職員で意見交換し、学級経営に活かす。	A	・個別指導計画を作成し、それに基づいた保育を展開した。週案の会議で週の個別のねらいや支援を具体的に示すことで、全職員で対象児の育ちや課題について共通理解し協力して進めていくことができた。 ・合理的配慮を考えながら保育を進めていくために、職員間で相談し合い、協力していくことで、共に育ち合う子供の姿につながった。幼児理解に努め、それぞれに応じた、援助が行えるように引き続き、連携をしていきたいと考える。	・幼児理解に努め、子供に必要な支援を的確にできるように全職員で協力していく。また、研修で学んだ事を実践していけるよう、各自が意識していく。 ・支援対象児のみならず、気になる子供についても連携を図りながら、より適切な支援方法を探っていく。	・対象児の支援方法や課題を先生方で共通理解してくれていることが一人一人の成長につながっていると感じる。 ・対象児以外の保護者にも取り組んでいることが見える状態になると、よりよいと思う。
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む道徳教育、情操教育の推進	・自尊感情や思いやりをはぐくむ保育を実践する。 ・個人懇談、学級懇談などで子育てを振り返ったり、子供の人権について考え合ったりする機会をもつ。	・一人一人の思いを受け止め、友達のよさや違いを認め合う子供の育成に努める。 ・個人懇談や人権の職員研修、保護者研修を開催し、子育ての中で自尊感情や一人一人を大切にすること等について保護者が振り返られる機会をもつ。	A	・保護者アンケートで、「子供は幼稚園で、他の人に思いやりの気持ちをもつことができるようになっていく」の項目で、AとBを合わせた回答が8割を超える。 ・保護者アンケートで「個人懇談や人権の保護者研修等で、子育ての中で自尊感情や一人一人を大切にすること等について保護者が振り返られる機会をもつ」の項目で、AとBを合わせた回答が8割を超えた。	・今年度は幼稚園での子供の姿をホームページやクラスだよりだけではなく、玄関に写真を展示したりホームページの更新時にQRコードを伝えたりしたことで、良い結果につながったと考える。引き続き、子供たちの姿を伝えていく方法を考えていきたい。 ・集まって行う研修はまだ難しいが、今後も保護者の方が自身を振り返り、新たな気持ちで前向きに楽しく子育てをすることができるように、研修内容や人権について考える機会を啓発していきたいと考える。	・幼児期の集団生活で思いやりの心をたくさん育てられている。保護者も子育てについて振り返り、学ぶ機会があることは貴重で大切だと思う。
	子供の健やかな体づくりの推進	・基本的な生活習慣を確立させる。	・基本的な生活習慣の確立を図るため、園児の実態に合わせて、ほけんのはなしを実施する。 ・ほけんだよりでの啓発や、けんこうカレンダーを通して保護者と共に取り組む機会をもつ。	A	・ほけんのはなしを定期的に行った。季節柄や学年の子供の実態に応じて内容を清潔にすることや健康を維持することに意識することができた。 ・「幼稚園は基本的な生活習慣(早寝早起き、朝ごはん、排便、手洗い、うがい、歯磨きなど)を意識して生活できるように指導している」の項目でAとBを合わせた回答が8割を超えた。 ・「子供の基本的な生活習慣の確立に向けて、健康カレンダーを活用しながら家庭で意識して取り組めるように発信している」の項目でAとBを合わせた回答が9割を超えた。	・引き続き、季節柄や子供の実態に応じて内容を吟味してほけんのはなしを行う。 ・基本的な生活習慣の大切さをほけんだより等で保護者に配布することで、幼稚園の取り組みが保護者に伝わりやすくなったと捉える。引き続き取り組んでいく。 ・幼稚園での取り組みを家庭でも行えるような内容で健康カレンダーを作成したことが、アンケートの高評価につながったのだと捉える。引き続き取り組んでいく。	・生活習慣は毎日の積み重ねなので、保健の話や健康カレンダーは子供が意識して取り組める大事な機会になっている。継続してほしい。
開かれ信頼される学校園	園情報の積極的な発信	・園の情報や教育活動を保護者や地域に積極的に発信する。 ・子供の育ちや様子を連絡帳などを活用し、保護者に伝え、連携を図る。 ・クラスだよりを発行し保育の取り組みのねらいや意図を保護者に伝えていく。 ・ホームページを更新することにより、園の様子を発信していく。	ホワイトボード等を活用し、日々の様子を発信する。 ・子供の育ちや様子を連絡帳などを活用し、保護者に伝え、連携を図る。 ・クラスだよりを発行し保育の取り組みのねらいや意図を保護者に伝えていく。 ・ホームページを更新することにより、園の様子を発信していく。 ・昨年引き続き、保護者と個別に連携していくことの多いが、子供の育ちを共有し、連携出来るよう工夫する。	A	・ホワイトボードを活用し、毎日保育の一部を紹介し、発信することを継続できた。 ・クラスだよりでは保護者にも今のクラスの様子を伝えることができた。クラスだよりをグーグルを使って発信することが出来たが、使いこなしていけるようにすることが継続しての課題である。 ・保護者アンケートにおいて、「玄関のホワイトボードや、クラスだより、ホームページなどで子供の育ちや保育内容がわかりやすく発信されていると思いますか」の項目の回答が8割を超えていた。 ・ホームページは方法や手順がかわったが、それを研修し、取り組んできた。日々の生活の中では多忙によりあげにくい状況は課題である。	・日頃の子供の育ちもホームページにあげていけるように新しい園になって一人一人意識を持ち、全職員で取り組んでいく。 ・その他のICTの活用も含め、研修などを通じて自己を研鑽し、取り入れていくことが大切である。	・保護者が園で子供の様子、成長を知ることが出来るツールは、新しいところでも継続してほしい。様々な情報を発信し、保護者の高評価につながっているのは素晴らしいと思う。 ・今年度は難しかったと思われるが、オープンスクールのような機会が増えればと思う。
	地域との交流	・地域の幼稚園として、大事に思っていただけに、大事に連携を図る。 ・小学校、中学校、未就園児など地域と共に育ち合う教育内容の工夫に取り組む。	・地区の方々にも幼稚園の状況をその都度知らせ、関心を持ってもらう。 ・状況と状態を鑑みながら、その時にできることを工夫して行う。 ・状況と状態を鑑みながら、未就園児が幼稚園で遊べる機会を大切に、安心、安全に遊べるようにする。	B	・コロナ禍で、出来ることを見つけ、安全に対策しながら取り組めるよう計画したが、ほとんどは、緊急事態宣言等により連携を図ることができなかった。 ・教師同士など、大人同士の関わりの中では、お互いに気掛け合ってできないなりにできることを考えあおとる機会が生まれた。 ・小学校・中学校とは、連携が必要な就学前の引き継ぎなどは行うことが出来た。	・コロナ禍で、見通せないところもあるが、できることを見つけて、子供に経験させたいこと、ねらいや内容を吟味し、今後も取り組んでいくことが大切である。 ・こやのさと幼稚園はこれで閉園となるが、ささほらこども園に子供たちの中に、この校区の子供たちはたくさんいる。引き続き小学校や中学校との連携を図り、教師間でもより連携を深めていく。	・コロナ禍ならではの関わり合い方が出来たと思う。今後も出来る形で子供たちの見守りや引き継ぎを行ってほしい。状況が変わったときには保護者や地域と一緒に関われる取り組みを考えたい。 ・致し方のない状況下で、先生方は尽力されたと思います。 ・SC21こやの里としての案内を受けて、園児や保護者が少しでも地域とつながりが持ったことはよかった。

学校関係者評価総括
 昆陽里小学校校区の幼稚園が閉園になるのは、さみしいですが、これまでの数年間、先生方が子供たちの為にいろいろな体験をさせるべく持てる力を発揮されている姿を見て、心強く思っている。

次年度に向けた重点的な改善点
 複数の校区から園児が通ってくる状況が今よりも増してくる。その園児が住まう地域とのつながりを大事にしようと思うと、先生方の動きがますます重要になってくると思う。小学校の動きは言うまでもなく、地域やSC21の動向にも注視して、園児たちを導いていただければと思います。